産業建設分科会会議録

日時 令和4年5月13日（金曜日）

午前10時50分開会 午前11時40分閉会

場所 第1委員会室

日程

1 開会

2 委員長挨拶

3 協議・説明事項

議案第38号 令和4年度土浦市一般会計補正予算（第2回）

4 閉会

出席委員（8名）

委員長 平石 勝司

副委員長 柏村 忠志

委員 内田 卓男

委員 寺内 充

委員 矢口 清

委員 柳澤 明

委員 小坂 博

委員 勝田 達也

説明のため出席した者（7名）

副市長 片山 壮二 産業経済部長 佐藤 亨

都市政策部長 船沢 一郎 商工観光課長 沼尻 健

商工観光課産業政策係長 中村 良 農林水産課課長補佐 岡田 将之

都市計画課長 飯泉 貴史

傍聴者 0名

事務局職員出席者 松本 裕司

○平石委員長 ただ今から、産業建設分科会を開催いたします。それでは、協議に入ります。議案第38号令和4年度土浦市一般会計補正予算（第2回）について、執行部から説明願います。

○佐藤産業経済部長 私からは、農林水産課関係の御説明をいたしたいと存じます。まず、歳出の説明の前に、事前委員会で内田委員から今回のコロナ関係の臨時交付金の活用状況について、御質問がありました。全体会でも説明があったと存じますが、当委員会関係のものをもう一度御説明いたしたいと思えます。まず、令和3年のコロナ臨時交付金は、発行可能額が4億1,800万ほどで、令和3年度の1月の臨時会で1億6,500万で、繰り越しまして令和4年度の当初予算で9,100万ほど充当しまして、現在の残額は、先ほどもありましたが、1億6,200万ほどでございます。それでは、資料の11ページをお願いします。歳入でございます。こちらは、今回の補正予算の歳入でございます。下段の国庫支出の4項でございます。コロナウイルスの地方創生臨時交付金の内訳でございます。12ページを御覧ください。上段の国庫交付金計にもありますとおり、総額が1億6,208万3,000円となっております。こちらが国庫交付金の残額でございます。今回の補正予算で、残りを全て活用するというので、先ほども説明があったところでございます。一方、当委員会では4目の農林水産業費で1,100万円、それから5目商工費で1億137万円、土木費の1,645万2,000円を充当し、活用するものでございます。つづいて、歳出の御説明をさせていただきます。14ページへお戻りいただけますでしょうか。下段の5款農林水産業費、1項農業費、3目の農業振興費でございます。こちらは、新治の農業センターに来場する市民の方への感染対策費、れんこん日本一のPR、走る広告塔でございます。具体的には一番右の説明欄で、まず農業センター関連でございますが、消耗費は消毒液のスタンド4万6,000円、備品購入費は、サーマルカメラ、空気清浄機購入費の94万円です。それから、れんこん日本一のPRとして役務費でございます。バスへのラッピング1,284万円で、総額は7,443万円を計上させていただきました。その右側でございます。コロナの臨時交付金1,100万を活用させていただくものでございます。私からは、以上です。

○沼尻商工観光課長 商工観光課です。ご説明いたします。15ページをお開きください。1番上の箱の第6款商工費、2目商工業振興費の一時支援金でございます。こちらは、まん延防止等重点措置により、売上げが減少した事業者を支援するために、一時支援金を支給するものでございます。その内

容でございますが、茨城県が独自に展開している営業時間短縮要請等関連事業者支援一時金に本市も連動しまして、県が支給する一時金の2分の1を上乗せ支給するもので、今回が4回目となります。補正額は、1億3,217万4,000円をお願いするものです。そのうち、国県支出金は国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金でございます。こちらの1億137万円を充当いたしまして、土浦市からの一時支援金として、市内の事業者を対象に継続してまいりたいと考えております。説明は、以上となります。よろしくお願ひいたします。

○飯泉都市計画課長 都市計画課でございます。15ページの2行目でございます7款土木費、4項都市計画費、1目都市計画総務費につきましては、18節負担金補助及び交付金のうち補助金といたしまして、地域交通関連事業者運行継続緊急支援金を支給するに当たり、2,056万5,000円の増額補正をお願いするものでございます。本事業の実施に当たりましては、表の中ほどの国県支出金にございまして、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を、事業費の8割となります1,645万2,000円、充当いたしまして、市民の皆さんの重要な移動手段である路線バス等の運行継続に努めております地域交通関連事業者に対しまして、支援金を支給するものとなっております。対象となる事業者といたしましては、路線バス・貸切バス・タクシー・運転代行を行う事業者とするものでありまして、交付金額につきましては、車両の所有台数に応じた額を支給するものでございます。説明は、以上となります。よろしくお願ひいたします。

○平石委員長 ありがとうございます。ただ今の件について、御質問等ありますか。

○寺内委員 佐藤部長、事前委員会の際に1台75万は高すぎるのではないかと、事業者を打合せをしておいてくれということだったのだけれど、何ら説明をしないで、この予算を認めてくれということなのかな。この3日間で、しなかったのかな。

○岡田農林水産課課長補佐 農林水産課です。関鉄バスの掲出については、ホームページに掲載しており、事業者向けに全て同じようにこの金額ということで定まっておりますので、交渉して安くというお話をさせていただいても、できないというふうなお話でございます。

○寺内委員 だったら、バスではなくたっていいじゃん。タクシーだって走っているのだから。そんなにまけてもらえないというなら、バスじゃなくたっていいだろう。それくらい言わないと駄目なんだよ。じゃあ、バスじゃな

い方法を考えてみますくらい、言わなくちゃ。何ら努力もしてないじゃないか。それだったら市内を走るタクシーにカッティングシートを貼ってもらうようにしたら、この金額で何台走れることか。ただ、目立つからいいや、大きいからいいやでは、ないだろう。れんこんをPRするんだろう。タクシーだったら、成田空港だって行くんだよ。そういうようなPRをするんだったら、広範囲にしたほうがいいと思うんだよ。何もバスにこだわることは、ないんだよ。だから、折衝でそういうことを言うんだろうと思っていたのに、決まった金額ですから変わりませんというなら、バスなんか止めたらいいいんだよ。そんなんだったら、違う方法があるんだから、はっきり言って俺は認められないよ。3日前に議論したことが何も通っていないなら、話にならないじゃないか。ここにタクシー会社の会長がいるんだから頼んだっていいし、カッティングシートなんて機械で同じのが作れるんだから、金額だって安くなるだろうよ。何でそういう努力をしないのよ、いくら国庫支出金を充てられるからといって、何の努力もしないで使うっていうのは、おかしくないかい。議会でこないだ言われたんだから、そういうことを当然やってくるんだよ。何もやらないで、通常の説明でよろしく願いしますなんて、認められるわけないだろう。それじゃあ、委員会なんてやる必要ないんだよ。委員会で意見を吸い上げて、分かりましたと言ったなら、そういう動きをしてくれなくては。違うか、佐藤部長。トラックだって何だっていいんだよ。トラックだったら日本全国走るのに、関鉄バスはどこまで走るのよ、そういうことも考えなくてはしょうがないだろう。

○柳澤委員 俺もいいかい。今の寺内委員の意見の中で、なるほどと思った。れんこんのPRだよな、日本一のれんこん。土浦市外の人にPRするのが、本来の目的だと思うよ。だとしたら、市内を循環している関鉄バスに貼っても、市内の人しか見ないんだから、そんなに大きな効果はないだろう。タクシーとかトラックとか、土浦市の人以外の人に見てもらおうPRの仕方のほうが、正解なのだろうと思うんだ。こういう意味では、今回の関鉄バス、ちょっとクエスチョンだな。事前の委員会では、そこまで突き詰めなかったけれども。関鉄バスに貼るのは、市外に行くバスか。

○佐藤産業経済部長 はい。22系統のうち、市外まで走る10系統のバスにラッピングさせていただくものです。

○柳澤委員 その10系統は、どこまで行っているのか。

○岡田農林水産課課長補佐 市外への行先は、阿見町の東京医科大学医療センターですとか、つくばのセンタービルですとか、水海道駅のほうへ行って

いるバスなどがあります。

○柳澤委員 大体、周辺だわな。そこいらの人は、土浦のれんこんを知っているよな。そうではなくて、東京とか関東、または全国へとPRの方法というのも考えてはいるんだらうけれど、そういうのを考えると、今回の関鉄バスのPR効果は、あるのかなという気がするんだわ。知っている人にPRしてもしょうがない、今まで知らなかった人に知ってほしいよな。そういう意味では、今回のラッピングはちょっと疑問がありそうだね。そうは思わないか。人の懐から出る金だから構わないという考え方は、駄目なんだよ。執行部の人たちをお願いします、事業計画、予算は自分の財布から出すつもりで考えないといけない。

○佐藤産業経済部長 東京に行くバスにラッピングをすることなどを考えましたが、土浦からのものはなく、つくばからはあるということでした。金額が倍くらい高かったこともありまして、やはり市内の人にも改めてれんこん日本一を認識していただくこともあるだろうと、今回、フルラッピングで市内の人にも認識していただきたいという思いで、土浦市から市外へ出るもので10系統を考えた次第でございます。

○内田委員 部長、困っているのは、よく分かるんだけど土浦の発着にこだわるから、こうなるんだよ。水戸や東京にもバスはあるよね。そっちのほうが、よっぽど効果があると思わないか。れんこんをPRしたいのだったら山手線の前後を走っているような会社にラッピングをしたほうが、よっぽど効果があると思う。それが100万だとしても、費用対効果の桁が違うんじゃないかという気がする。そう意味で、寺内委員が言ったことに、なるほどなと思いつながりながら聴いていたんだよ。あと、歳入のことなんだけど、令和3年度の地方創生臨時交付金を使い切るという話だけれども、例えばこれが否決なり、取下げなどをしたら、その歳入の分が浮いてしまうが、これは、いつまでなのか。6月、9月まで引っ張っても大丈夫なのか。佐藤部長は、財政課長でもあったから分かっているのではないか。そのことも考えないといけないと思ひ、質問しました。

○佐藤産業経済部長 先ほどの東京の費用対効果は、おっしゃるとおりかと思ひますので、今後、検討させていただきたいというところでございます。私たちが考えましたのは、市内の人への再認識となってしまつてございまして、過去にも「意外と近い！？つちうら」などがありました。そういった過去の事業も参考にしながら、進めていきたいという気持ちでは、います。そして、交付金は今回使い切りということでございますけれど、いろいろな事

業で最終的にどうなるかというところもございますので、今年度中に補正などで少なくなったものに充当していくものでございます。今年度に繰り越している国の交付金でございますので、今年度中ということでございます。

○内田委員 部長の説明を直接的に言うと、5月、6月までに使い切らなければ無効になるようなものでいいのね。

○佐藤産業経済部長 はい、それは、ないと思います。

○内田委員 土浦近郊、阿見町だってかすみがうら市だって、皆がれんこんを作っている。あと稲敷市か。どちらかと言えば逆に反感になるかも知れない。土浦のれんこんを食っているのは、土浦市よりも圧倒的に首都圏など、大きな胃袋。胃袋って表現がいいか分からないが、そういうところ、例えば仙台、北海道はどうか。10年か15年前に、釧路に行った時に土浦のれんこんが沢山入ってきているという話があった。大きな胃袋のところに宣伝しないと、意味がないんじゃないかという気がするね。阿見町、かすみがうら市の人に宣伝しても仕方ないという気がする。

○柳澤委員 取り下げてもらおうとありがたい。否決するのは、切ない。佐藤部長も立場ないだろう。

○片山副市長 寺内議員に御指摘いただきましたことで、実は我々も、もっと広域的にどうかと考えました。皆様の同じような御意見のとおり、我々も考えました。私のように、外から来た者としては、例えば3年ぶりに開催したかすみがうらマラソンに、決定は今後となりますが、花火。ウィズコロナの局面に当たって、また人々が土浦市に集まってくる。予算を使うに当たって、効率的あるいは自分の懐から出すとう感覚が重要なんだと、トライさせていただければと出したものでございます。あくまでも個人的な意見になり、大変恐縮ですが、申し上げさせていただきたいと思います。

○内田委員 土浦を起点にものを考えるのも、ひとつではあると思うのです。PRについて、ここからここまでやるんだ、まずはこの事業をやらせてくれないかというのであれば、分かると思うんだよ。現在、ここしか考えてないはずなんだよ。あえて言うならば、今後、どういう財源でやるかは別として、もう一度論理の積立てをして、第1回目だから認めてほしいというのであれば、皆も納得しやすいのではないか。執行部が出したこの案だって、100パーセント悪いとは、俺も寺内さんも言っていないんだよ。今後やっていく、これだけではないんだ、というような屁理屈で、議員をだますには、こういうふうしか、ないんだよ。余計なことだけど、しゃべっちゃいました。

(笑い声あり)

○佐藤産業経済部長 今回のれんこん日本一の窓口を作っていたことに対する第1弾として、市内の人に認識していただいて、今後は、地方創生交付金の第2弾もあるということなので、次は市外の人へ、費用対効果を考えたながら、第2弾、第3弾と徐々に広げていきたいと存じております。今回は、第1弾ということで、よろしくをお願いします。

○勝田委員 先日、県知事のお話を伺ったときに、れんこん農家の収入が減っているとのことでした。そのことはどのように考えていますか。また、この日本一のれんこんのPRという旗を挙げたことは、すばらしいと思いますが、誰のためなのか。れんこん農家さんは、地域の大事な担い手でございますが、この前も申し上げましたが、センチュウですとか鳥害にずっと悩みを抱えておられます。コロナ禍で、れんこん農家さんの収入が減っているということであれば、それを行政の力でアップしていくことが私は大事ではないかと感じています。このラッピング事業も、一環として捉えてはいるのですが、要するに、誰のためなのか。土浦のイメージアップのためなのか、実際にれんこんを生産されている農家さんへの生産拡大につなげるのかという考えを教えてください。

○佐藤産業経済部長 れんこん日本一のPRをやっていくためということと、コロナ臨時交付金を活用させていただく意味としては、れんこん農家さんの収入が下がっているという事実もございます。ここは、れんこん農家さんと市が一体となり、コロナに負けないで経済効果を生んでいこうという面もございます。ですから、今回は、先ほど申し上げましたとおりコロナで市内の農家さんと市内の方がもう一度気運を回復したいということで、第1弾として、第3、第4として展開していきたいと存じますので、今回は、よろしくをお願いします。

○内田委員 路線だよな。土浦を中心だという考え方で路線を選んだと思うんだけど、高速バスはどうなのか。

○佐藤産業経済部長 高速バスもラッピングは可能です。つくばから出ているものもあり、東京駅のバスターミナルに横に並んでしまうので、目に付くとすれば、市内から市外のほうが目につくと思います。

○内田委員 東京に駐車しているときは、それは当たり前だよ。高速道路を走っているときに宣伝効果があるかどうか。後は、都心でインターを降りて東京駅までの間とか。駐車しているときは、考えなくていいし、関鉄にこだわることでもないんだよな。

○佐藤産業経済部長 おっしゃるとおり、今回市内からの10系統をやらさ

せていただいた後は、第2弾として高速バスのラッピングのほうを検討させていただきます。それ以外にも、タクシーとか、寺内委員からいただいた御意見を十分に踏まえたいと思います。

○内田委員 ラッピングするバスの路線の変更は可能なのか。何十の中から、10路線選んだってことだけでも、路線を別なところに変更することは、可能でしょうか。

○佐藤産業経済部長 予算の話だけで言えば、つくばから東京に行っているものに絞るなど、予算を確保していただければ、できないことではないと思いますが、路線も含め審議していただいておりますので、今回は、この10系統で出させていただければありがたいと思います。

○小坂委員 意見ですけれど、今後広げていくという話ですので、品川の人はお金持ちが多いことと、高輪ゲートウェイ駅もできますし、それと数年後に新しい新幹線ができますよね。品川駅がこれから発展することは分かっていますので、提案です。よろしくお願いします。以上です。

○柏村副委員長 れんこんは高いんですよ。減反でれんこんに回していくのはどうなのか。今、お米もなかなかやらない。小麦をパンのほうにするとか、大きく構造が変わっているんですね。その場合に、日本一れんこんということをやれば叫ぶほど、米の減反とか、なってくる。それでいいのか、と。農業全体の振興からすると、決して花丸ではないのです。だから、基本的なことを考える必要がある。費用対効果と簡単に言うけれど、現在の構造を考えると、そんなに単純ではないですね。提案ですが、今、品川というところが金持ちと初めて聞きましたので、土浦の農林関係の担当者が、バスを使って、品川辺りとか銀座で、市のバスでわめく。つまり、本人が身をもってやるということ。また、柳澤委員がいったように、宣伝カーを使うときには、登録が必要なのです。そういうことで担当のほうは月1回、どなってくる。実際、れんこんを食べるのは、高いということと、私は福島で育ちましたが、れんこんを食べるのは正月だけでした。提案は、農林水産関係の職員が、市の小型バスを使って、まずやってみてください。

○柳澤委員 もう、いい加減にしようよ。30分以上、やっているだろう。佐藤部長、第1弾、第2弾と後付けで行ったけれど、後出しじゃんけんしていいものじゃない。ただ、先ほど言ったように否決するのは切ない。議案を取り下げろとは言わないから、今後の宣伝計画をくつつけるということで、やってくれないかな。今はラッピングにこだわっているが、電車の中吊りでも構わないんだよ。いろんな方法があって、予算は別途考えるにしても、こ

ういうふうに全国に広めていきたいんだよ、と。そういうことを、今度の議会の委員会には、こないだ出すのを忘れてしまったと出してみなよ。今回、俺は通すから。

○佐藤産業経済部長 本当に御意見ありがとうございます。我々は、御意見を踏まえまして、今回、第1弾をやらせていただいて、次の議会に第2弾、第3弾をお示ししていきたいと存じます。

○内田委員 これ、議事録に残るだろう。副市長も出席しているから、ここで正式に言ってもらいたい。ただ忘れてしまって、あの時、俺はだまされたけれど、あれってどうなったかとならないように、はっきり言ってもらってさ。議事録に残れば、嘘はつかないだろう。もう一回、執行部としてやるんだと言ってもらえないかな。

○片山副市長 いろいろ、御示唆、御意見、御提案ありがとうございます。今日は第1弾として、全体をどうしていくのかいうのを取りまとめて、御説明したいと思います。よろしくお願いします。

○内田委員 言い出しっぺが言うしかないよ。

○寺内委員 議員は、行政視察に行ったときに、土浦に日本一のものが二つあると、れんこんと全国花火大会のことをPRしているよ。だから、近くでなくて、日本全国にPRしてくださいよと言っているのよ。ただ、今回、予算のことは納得しますけれど、そういうことがあるから、PRするんだったら、茨城から離れたところにPRしてくれということなのよ。よろしくお願いします。

○平石委員長 今、委員の方からいろいろな御意見がありました。また、農家の方が助かるような施策であるとか、費用対効果を含めた戦略的なPRにしっかり取り組んでいただいて、次回、委員の皆様にも納得いただけるような案を示していただければと思いますので、よろしくお願いたします。それでは、お諮りします。分科会としての賛否を確認いたします。この補正予算案について、賛成される方は挙手願います。

(全員挙手)

○平石委員長 全員賛成と認めます。分科会長報告書については、御一任でよろしいでしょうか。その他、執行部からありますか。

○船沢都市政策部長 執行部のほうからは、以上でございます。

○平石委員長 その他、委員の方からありますか。

○内田委員 あの、畑総って言葉、県の事業で新治の上坂田から降りてきてりんりん道路と直角に、道路が盛り上がっているところがあって、そのこの

とだと思っただけけれど、畑総って、はっきり言って、知らないんだよ。土浦の都市計画との関係で、どう理解したらいいのかという観点で、6月の委員会的时候に理解しやすいような資料と説明をお願いしたいんだよ。あれは県の事業だから知らないよでは、通らないんだよ。りんりんロードを自転車で歩くにしても、あれ何だよって説明できなかったんだよ。現地に行ってみたら、霞工業さんが積み上げた仕事だったんだよ。今、それが完了しているのかどうか、将来どうなるかを説明してほしいな。

○佐藤産業経済部長 それでは畑総合は、資料を作成して、次の委員会的时候に説明させていただきたいと思います。

○内田委員 お願いします。

○平石委員長 よろしいでしょうか。以上で、産業建設分科会を閉会します。